

2023年1月阿蘇赤谷山行報告

日 時：令和5年〔2023年〕1月29日

参加者：中山・土橋・溝尾・岡村繁雄

行 程：仙酔峡駐車場 → 関門 → 赤谷 赤ガレ谷の出会い → 三段の滝 → 左の尾根（撤退）

行動時間：8時間

曇りで北稜の鷲ヶ峰から上部には、ガスがかかっていたが気温 -3°C で思ったほども低くなく、仙酔峡駐車場を7時出発。

関門を通過したところでアイゼン装着。



仙酔峡駐車場にて



仙酔峡駐車場

虎ヶ峰を望む





関門付近を通過、鷲ヶ峰を望む



赤谷、赤ガレ谷の出会い（右側が赤谷、左側が赤ガレ谷）

赤谷、赤ガレ谷の出会いに 8 時 30 分到着。そこから右側が赤谷、左側が赤ガレ谷で、我々は、右側の赤谷へ。

最初の急斜度の乗り越え

氷が無く意外と難しかった。
我々年配組には、念のためザイルを出してもらった。



大きなチェックストーンの下を巻く



雪が付いているが、
アイゼンでの岩登り
凹凸が確認出来ず
かえって始末が悪い





スラブ登攀

氷壁用縦ツメアイゼンでの登りは、スラブの凹凸をとらえて有効であったが、平ツメでしかも丸く摩耗した私のアイゼンの出っ歯では岩の凹凸をとらえられず、セカンドで登ってもふくろはぎがパンパンで情けない限りであった。





三段の滝 一段目



一段目を抜けたところ



三段目 快適なアイスクライミング



三段目の抜け口で確保



三段の滝を抜けた後、谷をつめる

三段の滝を抜けた後、左の尾根に進む
そのころからガスが濃くなり見通しも悪くなる



この上が左の尾根への抜け口



尾根からトラバースのルート探索中

三段の滝を通過して、左の尾根に上がりダイレクト尾根に回り込むルートを探索。
ブッシュが切られてこの付近までのルートは確認できたが、ガスで周辺の視界も悪い。
ルートらしい痕跡は確認できたものの、我々年配組もいることもあり、無理せず撤退することとした。[11:30]



尾根のブッシュを支点にして下降



三段の滝の二段目より、懸垂下降風景

しっかりとした下降用の支点があり、赤谷はここまでで引返す場合も多いと推測される。我々は、30m 2本ザイルを持参していたため三段の滝の最後の一段は、届かなかった。そのため最後の一名は、止む無く4~5mの氷壁をクライミングダウンで下降。結果的に40mのザイルが必要であった。その後も、要所要所に支点が残置されておりスムーズに下降することが出来た。

赤谷、赤ガレ谷の出会い
ここまでくると安全地帯





赤谷、赤ガレ谷の出会い付近から外輪山と仙酔峡を望む



前方、仙酔峡



下山途中で記念撮影



今回の登攀ルート〔国土地理院地図より〕

この数十年、風雨と地震で以前と様相がかなり変わってる感じで、せめてもう少し氷が張ってくれていれば、それなりに楽しめたのだが。

皆さんお疲れさまでした。

北九州山岳同好会「嵐」

Reported by S.Okamura Photo presented by M.Dobashi・S.Okamura